

地域の伝統文化のよさを感得する体験活動

山口県周南市立三丘小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：7学級(内特別支援学級1学級)
- 児童数：89人
- 教職員数：11人
- 活動の対象学年：5年生・21人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校の位置する三丘地区は周南市の東端にあり、島田川沿いに農地が広がる自然に恵まれた地域である。江戸時代にあった郷校の歴史や伝統から、教育に対する関心が高く、協力的である。
- 遺跡や歴史的な文化財も多く、地域の協力により、米・小麦・サツマイモ栽培なども行い、これらを生かした特色ある教育活動を展開している。
- 校区内の安田地区に山口県指定無形文化財「安田糸あやつり人形芝居」(以下、人形浄瑠璃)が伝承されている。平成7年度より、保存会の指導のもと、ふるさと学習の一環として教育課程の中に取り入れることとした。現在では、5年生が総合的な学習の時間に指導を受けている。また、人形浄瑠璃の上演を通して、近隣の小学校や高等学校、老人養護施設との交流学習も行っている。

③ 連絡先

- 〒745-0641
山口県周南市大字小松原1242
- 電話：0833-91-0327
- FAX：0833-91-0382
- ホームページ：
<http://www.shunan.ed.jp/mitsuosho/>
- 電子メール：mitsuosho@shunan.ed.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 仲間と学ぶよさを味わう活動
 - ・学級の仲間との体験活動や宿泊体験活動により、互いのよさを認め合い、共に学び合う、温かい人間関係づくりをめざす。
- 人形浄瑠璃の施設見学、体験活動
 - ・人形浄瑠璃の歴史を学び、人形浄瑠璃を伝え発展させようとする淡路島の人々との交流をとおして、郷土に伝わる伝統文化への思いを深める。
- 福井子ども会との交流活動
 - ・人形浄瑠璃を学ぶ淡路島の小学生との交流をとおして、自分たちのふるさとに伝わる人形浄瑠璃への誇りと郷土愛をはぐくむ。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 文化や芸術にかかわる体験活動
 - ・淡路交流学習3泊4日
(学校行事)
 - ・校内発表会での人形浄瑠璃の上演
(総合的な学習の時間1単位時間)
 - ・熊毛地区総合文化祭での上演
(総合的な学習の時間1単位時間)
 - ・給島小学校との伝統文化交流会
(学校行事2単位時間)
 - ・学習発表会「淡路島体験記」発表
(総合的な学習の時間1単位時間)
 - ・高校生との上演と交流会
(総合的な学習の時間2単位時間)
 - ・老人福祉施設での上演と交流会
(総合的な学習の時間2単位時間)

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

- ・人形浄瑠璃の発祥の地である淡路島に行き、人形浄瑠璃を伝え発展させようとする淡路島の人々との交流をとおして、郷土に伝わる伝統文化への強い思いを学び、自分たちのふるさとに伝わる人形浄瑠璃への誇りと郷土愛をはぐくむ。
- ・長期にわたって生活を共にしながら人形浄瑠璃の学習や練習を行うことで、仲間意識を強めるとともに、集団の中で自分の役割を自覚し、今後の生活や練習に役立てていけるようにする。
- ・人形浄瑠璃を保存会の方や6年生から教えてもらったり、同級生や下級生に教え合ったりすることにより、ともに学び合う集団をつくる。

○ 全体の指導計画

- ・活動の名称 「チャレンジ人形浄瑠璃 2007」
- ・実施学年 第5学年 21人
- ・活動内容、教育課程上の位置付け、期間

活動内容	活動期間	教育課程上の位置付け	活動の場所
淡路交流学习 ・オリエンテーション ・施設見学 ・地元の子ども会との交流体験学習 ・人形浄瑠璃の練習	4月 2時間 8月 3泊4日	学級活動 総合的な学習の時間	学校 淡路島
校内発表会での上演	10月 1時間	総合的な学習の時間	学校
熊毛地区総合文化祭での上演	11月 1時間	総合的な学習の時間	校外
給島小学校との伝統文化交流会	11月 2時間	学校行事	学校
学習発表会での「淡路島体験記」発表	11月 1時間	総合的な学習の時間	学校
熊毛北高校生との上演と交流会	1月 2時間	総合的な学習の時間	学校
老人福祉施設での上演と交流会	2月 2時間	総合的な学習の時間	校外

2 活動の実際

○ 事前指導

昨年度、現6年生がほぼ同じような日程で淡路島での体験学習を実施しているので、5、6年生合同でオリエンテーションを実施した。この体験学習のねらいや集団行動の在り方、交流学习に臨む態度などを確認したうえで、6年生から5年生へのアドバイスという形で、淡路島体験活動で学んだことや学習への生かし方について話をしてもらった。昨年の実体験に基づく6年生の話は、それぞれの個人のためや課題をもつことに非常に役立った。その後、宿泊する淡路島や人形浄瑠璃について、本やインターネットを使って調べ学習を行った。

本年度は特に、交流学习を行う予定の「福井子ども会」の方々に、事前に自己紹介を盛り込んだ手紙を書かせたり、交流の際に、現に自分たちが取り組んでいる人形浄瑠璃が上演できるようにしたりして、交流への関心や意欲を高めるようにした。

保護者には、学級だよりや参観日を利用し、交流学习の目的や日程、内容について説明を行った。さらに、3泊4日の長期間の宿泊であることから、夏季休業中に実施した家庭訪問でも、補足の説明を行ったり、児童の配慮事項を聞いたりして、万全を期した。

○ 活動の展開《淡路交流学习「人形浄瑠璃を学ぼう」》

期 日	実 施 内 容
8 / 8 (水)	<p>徳島市立阿波十郎兵衛屋敷の見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「傾城阿波の鳴門」の登場人物である十郎兵衛の屋敷を訪れ、三人遣いの人形にふれた。学校で取り組んでいる「順礼数え歌」の歌を舞台上で披露した。 <p>鳴門公園・渦の道見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「傾城阿波の鳴門」の登場人物のお鶴が通ったであろう鳴門海峡の渦潮を見て、心情に迫った。
8 / 9 (木)	<p>淡路人形座での人形浄瑠璃の鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロの演技による「傾城阿波の鳴門」を鑑賞した。その後、舞台裏で舞台の仕掛けや人形の種類、扱い方について説明を受けた。 <p>福井子ども会との交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三人遣いの人形による「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」を鑑賞した後、同じ外題で、「安田の糸あやつり人形芝居」と「順礼数え歌」を披露した。その後、「語り」「人形」「三味線」ごとに、技を中心とした交流活動を行いふれあうことができた。
8 / 10 (金)	<p>淡路人形浄瑠璃資料館の見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形浄瑠璃に関する様々な資料を見て、館長さんから人形浄瑠璃の歴史や変遷などの説明を受け、課題について質問を行った。 <p>震災記念公園「野島断層」の見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淡路島をおそった地震の爪痕をしっかりと目に焼き付け、震災時に地域住民が協力して被災者への救助活動を行った館長さんの話を聞き、常時からの助け合い、励まし合う仲間の大切さを痛感することができた。
8 / 11 (土)	<p>人形浄瑠璃の後継者育成の発表会を鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井子ども会、南淡中学校などの上演を鑑賞し、人形浄瑠璃継承への意欲付けとなった。
期間中、 毎日実 施した 活動	<p>ラジオ体操、ランニング、清掃・食事の活動、担当別の練習、学習プリント（国語、算数、社会）一日の振り返り活動（ふり返りカード、家族へのハガキ）</p>



阿波十郎兵衛屋敷の
三人遣いの人形体験



淡路人形浄瑠璃館で
人形浄瑠璃の歴史を学ぶ



福井子ども会の上演



淡路での三丘小児童による初演

○ 事後指導

学んだことや感じたことを「ニュース作文」としてまとめたり、福井子ども会の方々へのお礼の手紙として書かせたりした。また、道德の時間において、阪神淡路大震災の時のボランティア活動の様子を取り上げ、助け合って生活することの大切さを学習した。その後も、福井子ども会とは、熊毛地区総合文化祭での上演の様子を収録したDVDを手紙を添えて送るなど交流活動を継続している。さらに、学習発表会では、「仲間と学ぶ体験教室 体験記」と題して、3泊4日の体験学習を自作の劇として発表した。

3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会の体制

学校支援委員会は、安田糸あやつり人形芝居保存会の「三丘三和会」、PTA会長、校長、教頭、養護教諭、担当教諭で組織した。人形浄瑠璃を5年生の総合的な学習の時間の中核と位置付けているため、第5学年担任が中心となり、計画・準備を行った。体験活動の受け入れ先である淡路島の福井子ども会の代表の方との連絡調整を綿密に行い、体験プログラムの内容については委員会で協議を重ね、体験活動の充実を図った。

○ 配慮事項等

長期にわたる宿泊学習なので、保護者に事前説明会を行い、特に児童の健康状態についてはしっかりと把握し、養護教諭と相談のうえ実施した。また、受け入れ先である福井子ども会や資料館など見学施設とは、活動の趣旨をしっかりと説明し、見学内容や交流活動の流れ、役割分担等を打ち合わせ、児童の実態に即した有意義な学習が展開できるようにした。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

自己評価カードを作成し、児童の主體的な活動となるように心掛け、活動については必ず振り返りを行うこととした。特に、宿泊期間中は毎日、その日の活動を項目チェックと自由記述により行った。自己評価カードは児童同士の話し合いに生かすことができるとともに、教師にとっては、児童の気付きや感想をとおして児童を理解し、個々への具体的な働きかけの資料となり、活動の充実および指導の改善に役立った。

5 活動の成果と課題

○ 成果

寝食をともにした長期の宿泊体験をとおして、「みんなとコミュニケーションが取れるようになった。」「友達といっぱい話せるようになった。」「仲の良い友達が増えた。」など、以前より増して友達との関わりが密になり、互いを理解し合い、絆も深まったようである。また、友達と協力してできた体験から協力することの大切さを学んだようである。その後の児童の姿から、学習や生活の場面において、互いに学び合い高め合う集団へと変容しているように思う。

今回、5年生が長年、取り組んでいる人形浄瑠璃の発祥の地である淡路島での体験を実施したことで刺激を受けて、総合的な学習の時間での取り組みに広がりや深まりを見せている。学びの意欲が高まっていることに確かな手応えを感じている。

○ 課題

この2年間、体験の内容を本校が長年取り組んでいる人形浄瑠璃に絞って実践した。何を体験させ学ばせるか、そしていかに多くの学習や生活に結びつけていくか見通しをもつことが非常に大切である。さらに、児童の意欲をいかに持続させるか、具体的な働きかけ、環境作りが重要である。何より、長期の宿泊を伴うため保護者や関係団体の理解と協力が不可欠である。